

みやけの風

第 234 号

平成17年(2005年)8月6日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

「暑いですね～」が、毎日口癖のようについ口からついて出ます。今日の東京の予想気温は35度。朝から夕方になっても、アスファルトの輻射熱やクーラーの熱でまったく気温が下がらない日が続いています。湿度が高いので汗が乾かず、熱射病になりやすいとのことですので、特に体力の弱っている方は注意が必要です。我慢せず涼しいところに避難して、乗り切りましょう！

みんなの声

多難の道でも歩こうよ

三宅島の夏の日差しは格別です。けれど、日陰や夜風の心地よいことに感動します。

スペースシャトル『ディスカバリー』で宇宙へ飛んだ野口聡一さんは、船外活動を終えて、「眼下に見える地球は息をのむ光景です」と発言。蒼い地球の美しさを表現した言葉に、私は感激して拝聴しました。

争いのない平穏な社会を構築していくことの大切さを、地球人として自覚もさせられました。

5年前の8月18日、雄山の大噴火で上空1万メートルにも達した噴煙のすごさは、実に息をのむ光景でした。

青い地球の一点にすぎない雄山の内部は、どうなっているのだろうか。火山ガス情報に四苦八苦しつつも、火山ガスと共生しつつ、三宅島再生へ向けて人々は、時には笑顔さえつくって話しかけてくれます。

火の島三宅島は、私の心を取りこにしています。

(阿古 佐々木美代子)

みやけの風現地センターから

8月に入り、暑さも本格的になってきました。微風でも風があれば過ごしやすいのですが、ほとんど風がない日もあり、玉のような汗を滴らせながら、日々活動を続けています。

支援センターでは、8月を三宅島での活動の完成期として考えています。

8月1日からは、2月から7月までに一度は三宅島で活動したボランティアさんに、もう一度来島していただき、少数精鋭の体制で活動を継続しています。

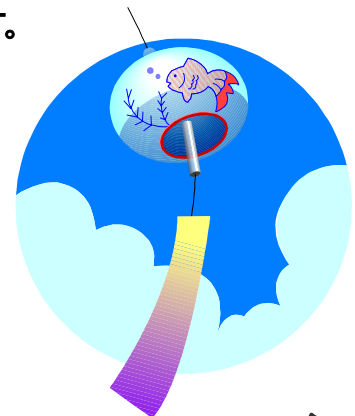
そして、ご存知のように、支援センター三宅島事務局は8月24日まで島に残ることとなりました。来週末からは、いよいよ私たちがお借りしている伊豆老人福祉館内の清掃となります。

それまでの間、あと1週間ほどですが、島の皆さんのお宅へお手伝いに伺わせていただく予定です。

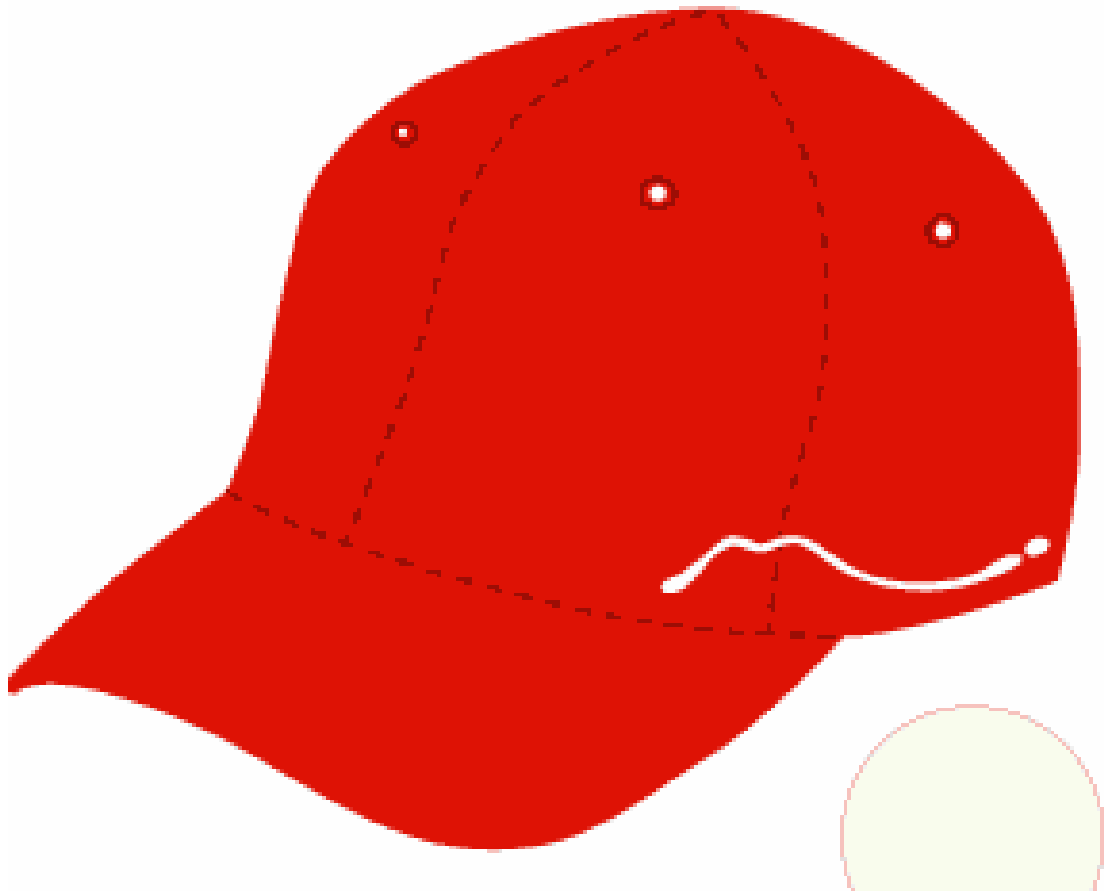
よろしくお願ひいたします。

8月6日 土曜日

三宅島支援センター 三宅島事務所



三宅島のみなさん
たくさんのふれあいとやさしさを
ありがとうございました。



2005年8月15日をもって、三宅島災害・東京ボランティア支援センターは、三宅島島内での帰島支援活動を終了させていただき、24日には全員帰京いたします。
多くの島の皆さんに支えられ、ここまで活動を続けられたことを感謝申し上げます。

2005年2月1日の全島避難指示解除から6ヶ月。帰島された島民の皆さんの力になればと、ささやかなお手伝いをさせていただきました。島民の皆さんが笑顔で迎えてくださり、わたしたちはたくさんのやさしさと生きることの大切さを学ばせていただきました。支援センターで活動した1,000人のボランティアは、この美しい三宅島が力強く復興されることを願っています。

三宅島支援センター 三宅島伊豆1054 (伊豆老人福祉館) 04994-2-1501